



[花き部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

4. 冷房育苗における播種後プライミングによるブルーレースフラワーの出芽促進

[要約]

ブルーレースフラワーの冷房育苗において、播種前の吸水処理及び播種時の灌水を行わずに、播種後プライミングを行うと出芽が早まり、出芽率が高まる。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 野菜・花研究室

[連絡先] 電話 086-955-0277

[分類] 情報

[背景・ねらい]

ブルーレースフラワーは、岡山県の特産花きの一つで、6月及び10～12月出荷作型の2つが主な作型である。ブルーレースフラワーの10～12月出荷作型においては冷房育苗が必要となるが、冷房育苗においては出芽が不安定となりやすい。そこで、ブルーレースフラワーの出芽促進技術の確立を目的に、最適な「播種後プライミング」の処理条件を冷房育苗において検討する。また、併せて、播種前の吸水処理の効果について検討する。

[成果の内容・特徴]

1. いずれのプライミング処理でも出芽率の向上効果は認められるが、最適な処理条件は、種子の吸水を行わず、無覆土、播種後灌水なしとした場合及び種子の吸水を行わず、覆土、播種後灌水なしとした場合の2条件である（図1）。
2. いずれのプライミング処理でも、種子に播種前吸水処理をすると出芽率向上効果が劣る（図1）。
3. プライミング期間中に発根程度を確認できるように、無覆土とするのが実用的である（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 播種後プライミングは、種子を水分調整した培養土に播いた後、水分レベルを維持しつつ一定の温度条件下に置く処理である。
2. 「ブルー」の購入種子を用い、種子の吸水処理は流水中で1日間、播種後プライミングは、培養土を入れ、十分かん水した後に播種したセルトレイをビニル袋に入れ、18℃、暗黒のインキュベーター内で、吸水する場合は9日間、吸水しない場合は10日間行った結果である。
3. 播種後プライミング終了時の発根率を、種子を吸水した場合は約30%、吸水しなかった場合は約50%とし、プライミング終了後は、15℃設定、50%遮光の冷房施設内でミストかん水とし、1回90秒、1日6回噴霧して育苗した結果である。
4. 品種、採種条件などによって、適切な播種後プライミング期間は異なると推察される。



[具体的データ]

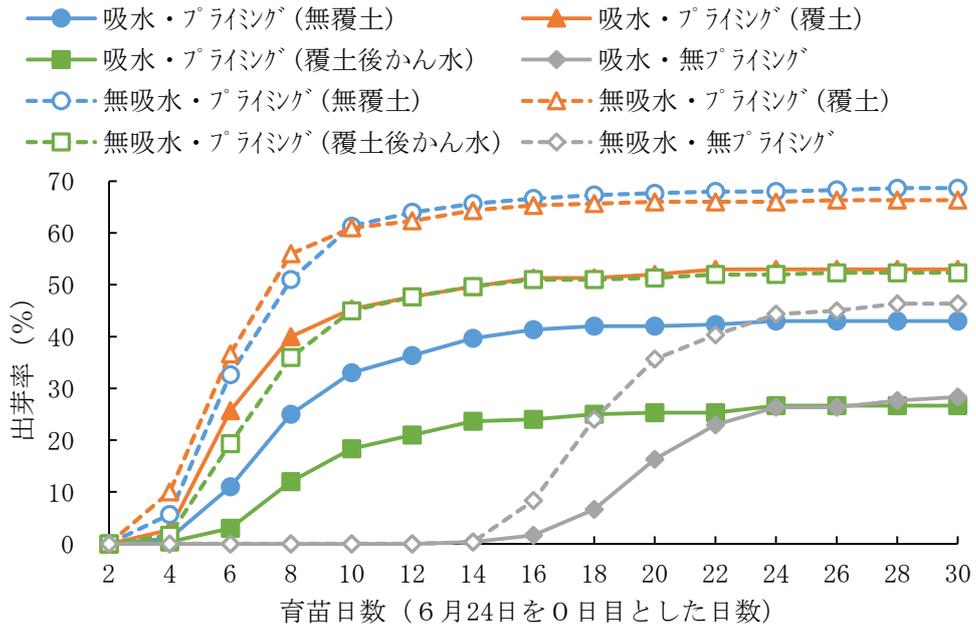
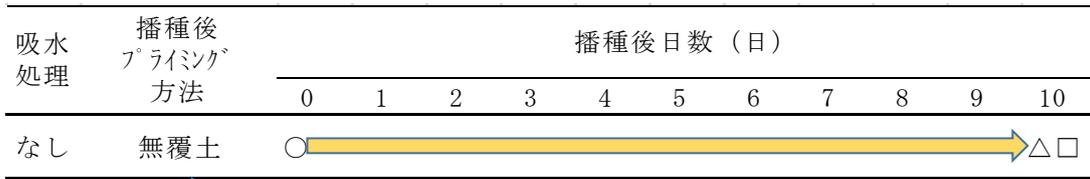


図1 吸水処理及び播種後プライミング方法がブルーレースフラワーの出芽に及ぼす影響



○：播種、→：播種後プライミング期間、△：覆土、□：かん水

図2 効果的な播種後プライミング方法

[その他]

研究課題名：難発芽種子の発芽（出芽）促進技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2017年度

研究担当者：森義雄、笠原有加